



ロールモデルの見つけ方

秋田の大学に入学するために旅立つY君、大手企業の名古屋支店に配属が決まったN先生など遠くに行ってしまう人もいてちょっと寂しいこの春ですが、新しいステージに踏み出すみなさんを見守りながらこれからも応援したいと思います。

さて、やっとJリーグも開幕ですが、かつてサッカーW杯メンバーの名サイドバックでありドイツのシャルケでも活躍した内田篤人さんをご存知でしょうか。その彼が日本サッカー協会のロールモデル・コーチという耳慣れない肩書で昨秋もU-19日本代表候補トレーニングキャンプに参加していました。後に続く人たちの目標やお手本になる存在がロールモデルですが、私たちの身近にも実はたくさんの人たちがロールモデルになっているはずです。そんな人たちとの出会いに気づいているか、それを生かしているかどうかでその後の人生もまた変わってくるのではないのでしょうか。

少し私のロールモデルの一端をお話したいと思います。北海道釧路の高校のテニス部に兵庫県西宮から転校してきた先輩がいました。それまできちんと指導らしいことを受けていなかった私たち新入部員にバリバリの関西弁で「ええかあ、ラケットは手で振るもんやない。腰で振るんや！」と熱血指導をしてくれました。大学に入学直後の学生課事務室。右も左もわからない新入生にそれぞれ親身にテキパキと指示してくれる女性職員がいました。後に私が入ったサークルの大先輩だと知りました。食品メーカーに勤務していた頃、日本のトップ商社の一つであるM商事から出向してきた上司がいました。東京下町の出身で、べらんめえ口調の大柄な人でしたが、実に緻密なデータを作りそれを分析して仕事につなげていくことを手取り足取り教えてくれました。

かつて久しぶりに訪ねてきてくれた卒業生が「勉強の楽しさに気づかせてくれたのは塾長だったから。」の一言が心に残っています。私たち大人は、次の世代のためのロールモデルのひとかけらになれているように、日々を過ごしていきたいものです。